

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

地理歴史・公民 第12号

- 高等学校，特別支援学校対象 -
平成26年4月発行

資料活用と作業的・体験的な学習の指導の工夫 - 新聞の活用，文化遺産の調査・見学を中心に -

『高等学校学習指導要領』（以下「学習指導要領」という。）においては，地理歴史科，公民科いずれも各科目の指導に当たって，「情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに，作業的，体験的な学習を取り入れるよう配慮すること。」と明記されている。そして，具体的に取り入れるべき学習活動として，「各種の統計，年鑑，白書，新聞，読み物，地図その他の資料を収集，選択し，それらを読み取り解釈すること，観察，見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすること。」と示されている。

資料を活用する能力は，生徒が主体的に課題を探究する学習において効果的に培うことができる。そのため，「学習指導要領」でも課題を探究する学習を積極的に取り入れることが求められている。

そこで，本稿では，生徒が自ら考え公正に判断する力を育成するという観点から，資料活用と作業的・体験的な学習の指導の工夫について述べる。

1 資料を活用した学習の指導の工夫

資料を活用した学習に当たっては，次のような点を意識して指導したい。資料の収集では，事前にどのような情報が必要な

のか，それはどのような方法で入手できるかなどを考え，資料収集の計画を立てさせる。大抵の資料は図書館やインターネットで入手できるが，自分で主体的に情報にアクセスして収集させることが肝要である。

収集した資料は本当に必要な情報であるか，信頼できる情報であるか，などの観点から吟味し，取捨選択させる。収集，選択した資料から情報を読み取り，解釈していくが，その際，複数の資料を比較したり，関連付けたりしながら，多面的・多角的に考察し，諸事象に対して公正に判断できるような学習活動を行うことが重要である。

こうした学習活動に非常に効果的な資料の一つに新聞が挙げられる。新聞には，一覽性，俯瞰性，解説性，詳報性，記録性，携帯性，保存性といった様々な特性がある。学習活動に新聞を取り入れる際は，どの特性を生かして，どのような活動をさせるかを十分に検討しておくことが大切である。

表1は，公民科「現代社会」における，新聞を活用した学習指導の例である。ポイントは，地域の課題や取組についてまとめた連載記事から必要な情報を選択して読み取り，それを基に解釈，説明する課題探究型の学習である。

表1 公民科「現代社会」学習指導例

時間	主な学習活動	指導の工夫・留意点
1	学習課題を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ日本人は豊かさを実感できないのか。」と生徒に問い掛け、教科書や資料集等の資料を基に各自で考えさせる。生徒の答えを踏まえて更に深く考えさせ、生活関連の社会資本の不足や、過疎化等の社会問題が背景に存在することに気付かせ、そこから学習課題を設定させる。
2	身近な地域の課題を探る。()	<ul style="list-style-type: none"> 前時に設定した学習課題について、身近な地域の問題を通して考えさせる。 生徒が生活する地域の現状について、新聞記事「大隅半島の課題」 から、過疎化や中心市街地の空洞化などの問題が発生していることを読み取らせる。 【ポイント 読み取り】
3	身近な地域の課題を探る。()	<ul style="list-style-type: none"> 前時に調べた各自の居住する地域の問題を、大隅半島の大判地図に記入させ、各地に多様な問題が存在していることを理解させる。 地図上に示されたそれぞれの地域の問題について、その背景と及ぼす影響について具体的に考察させる。 【ポイント 解釈】
4	地域の活性化のためにどうすべきかを考える。()	<ul style="list-style-type: none"> 自ら追究する課題について、複数の新聞記事を関連付けながら考察させる。その際、新聞記事「大隅半島の明るい未来をひらくために」 を基に、必要な情報を取捨選択して読み取らせる。 【ポイント 読み取り】
5	地域の活性化のためにどうすべきかを考える。()	<ul style="list-style-type: none"> 考察した内容を「大隅半島活性化プラン」としてまとめ、発表させる。 他の生徒の発表も参考にして、もう一度多面的・多角的に考察し、自分なりの解決策を提案させる。 【ポイント 説明】



自立遠く

新聞記事「自立遠く」5 悲願のトンネルで衰退（肝付町）他、大隅半島各市町の現状を取り上げた南日本新聞の記事8本

悲願のトンネルで衰退

「大隅半島活性化プラン」の1つとして、大隅半島にトンネルを建設する計画がある。これは、大隅半島の活性化を促進するための重要な施策である。トンネルの建設により、交通の利便性が向上し、観光や産業の発展が期待される。しかし、トンネルの建設には莫大な費用がかかるため、財政的に厳しい状況にある自治体にとっては大きな負担となる。また、トンネルの建設には環境への影響も考慮しなければならない。トンネルの建設は、大隅半島の活性化に貢献する一方で、持続可能な発展を実現するための課題も多い。自治体は、トンネルの建設を進めるとともに、地域の資源を活用し、独自の発展戦略を構築していく必要がある。



バス発着所論議大詰め

鹿屋の拠点整備 現地が移転か

新聞記事「大隅半島の明るい未来をひらくために」

「バス発着所論議大詰め」（鹿屋市）他、大隅半島における様々な課題の解決に向けた取組を紹介する南日本新聞の記事24本

市活性化協 2案に長短、先送りも

鹿屋市は、大隅半島の活性化を促進するために、バス発着所の整備と現地の移転に関する議論を進めている。バス発着所の整備により、交通の利便性が向上し、観光や産業の発展が期待される。しかし、現地の移転には莫大な費用がかかるため、財政的に厳しい状況にある自治体にとっては大きな負担となる。また、現地の移転には環境への影響も考慮しなければならない。自治体は、バス発着所の整備を進めるとともに、現地の移転に関する議論を進め、持続可能な発展を実現するための課題も多い。自治体は、バス発着所の整備を進めるとともに、現地の移転に関する議論を進め、持続可能な発展を実現するための課題も多い。自治体は、バス発着所の整備を進めるとともに、現地の移転に関する議論を進め、持続可能な発展を実現するための課題も多い。

池之上博秋教諭の鹿屋農業高等学校における実践を基に作成

授業で新聞を活用する場合、従来は導入の場面で時事問題や授業内容に関連する記事を紹介し、生徒に興味関心をもたせ、授業を展開していくというものが多かった。それに対して、今求められているのは、記事を選択して内容を読み取り、そこから社会的事象を解釈させたり、連載記事を基に社会的事象の事前と事後や因果関係などを説明させたりする活用法である。

したがって、新聞の活用に当たっては、単に学習内容に関係があるというだけで使用するのではなく、この記事を使ってどのような言語活動を行うのかという視点をもつことが大切である。

2 作業的・体験的な学習の指導の工夫

地理歴史科、公民科においては、自主的、積極的な学習活動を通じて、自ら考え正しく判断できる力を育成するという観点から、観察、見学、調査などの作業的・体験的な学習を導入することが効果的である。

「学習指導要領」（内容の取扱い）では、地理歴史科における作業的・体験的な学習について次のように例示している。

「世界史A」、 「世界史B」

年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりする。

「日本史A」、 「日本史B」

年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れる。

「地理A」、 「地理B」

地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的・体験的な学習を取り入れる。

ここでは
地理歴史科
(日本史B)
における地
域の文化遺
産の調査・



写真 反射炉跡遺構

見学を取り入れた学習指導について紹介する(表2)。具体的には、鹿児島市吉野町磯にある反射炉跡(写真)と、そこから出土した資料の見学・調査を行い、幕末薩摩藩の近代化(集成館事業)について、その概要と歴史的意義について考察してまとめる学習である。

なお、この反射炉跡は、幕末薩摩藩が開発した集成館事業の中心的な施設で、平成27年度の世界文化遺産登録へ向けて政府推薦が決まった「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産の一つである。平成26年2月に出された「鹿児島県教育振興基本計画」にも、その活用に努めべき旨が明記されているように、積極的に教材化していきたい郷土素材である。

表2は、単に文化遺産を見学するだけではなく、実際に反射炉の遺構に触れてその構造を確認したり、発掘調査で出土した資料を調査・見学し、化学分析のデータから燃料の違いに着目し、薩摩の製鉄技術を探究する学習を含んでいる。このような活動に当たっては、担当者からどのような視点から解説してもらうか、どのような資料を提供してもらうかなど事前に綿密な打合せをしておくことが不可欠である。生徒にも、何のために何を調べるために行くのか、目的意識をしっかりとって臨ませることが肝要である。

表2 地理歴史科（日本史B）学習指導例

単元名 「歴史の解釈」（雄藩のおこり） 単元目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲的に反射炉跡の調査・見学を行い，その概要と歴史的意義について追究する。 ・ 諸資料を基に，薩摩藩の近代化と技術力について多面的・多角的に考察する。 ・ 反射炉に関する諸資料から必要な情報を読み取り，考察したことをまとめる。 ・ 薩摩藩の近代化（集成館事業）の概要と歴史的意義を，総合的に理解する。 単元の指導計画（全4時間 部分が文化遺産の調査・見学）		
時	主な学習活動	指導の工夫・留意点
1	集成館事業の概要について調べる。 集成館事業（製鉄，造船，大砲製造，紡績，薩摩切子等）の中からグループごとにテーマを一つ選択し，追究の柱を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『かごしまタイムトラベル～日本の近代化を訪ねる旅～』を活用し，各自で調べさせる。 ・ 以下，「製鉄」というテーマを選択したグループについて記す。
2 ・ 3	反射炉跡を学芸員に解説してもらいながら見学する。 尚古集成館に保存・展示してある反射炉跡から出土した耐火レンガや鉄滓等の出土資料から，薩摩藩の技術力や技術者の工夫について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の遺構や遺物の見学を通して，反射炉の仕組みと機能について考察させる。 ・ 実物資料，分析データ，文献資料を関連付けて考察させる。加えて，技術者の写真や逸話なども紹介して，多面的・多角的に捉えさせる。
4	調査・見学して判明したことを基に，薩摩藩の近代化（集成館事業）の概要と，その背景にある技術力について考察する。 当時の日本を取り巻く世界情勢を踏まえて，薩摩藩の近代化（集成館事業）の意義についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反射炉跡の見学を踏まえ，『島津斉彬公御言行録』を基に島津斉彬の外圧や近代化に対する考えを確認させる。 ・ 西洋列強の外圧については，教科書でしっかり確認させる。

本稿では，地理歴史科・公民科における資料を活用した学習の指導と文化遺産の調査・見学を取り入れた学習の指導の工夫について，新聞を活用した授業と反射炉跡の調査・見学を取り入れた授業の指導例を紹介しながら，具体的に述べてきた。

このような学習活動の実施に当たっては，科目の特性に応じて適切な指導方法を選び，生徒や地域の実態を考慮し，指導計画を作成することが大切である。

実際に資料の活用や調査・見学を行う場面においては，生徒に主体的に多面的・多角的に考察させる工夫が必要である。さらに，考察したことを基に社会的な諸事象に対する公

正な判断をさせることが重要である。

このような学習の積み重ねが，教科の目標である「平和で民主的な国家・社会の形成者としての必要な資質」の育成にもつながっていくのである。

- 引用・参考文献 -

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』，平成22年

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』，平成22年

日本新聞協会『新聞活用の工夫 提案 - NIEガイドブック 高等学校編』，平成25年

鹿児島県企画部世界文化遺産課『かごしまタイムトラベル～日本の近代化を訪ねる旅～』，平成24年

（教科教育研修課）